

◆ 今週のコメント

- ・ 細菌性赤痢の本年初めての報告が1例(20歳代, 男性)あり, 推定感染地域はインドです。感染症法の施行(平成11年4月)以降では, 平成12年が最も多く(28例), 最近では, 平成19年が4例, 平成20年, 21年が各1例と, 減少傾向にあります。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は, 1.83(75例)です。患者数は2週連続して減少していますが, 京都市衛生環境研究所では, 手足口病原因ウイルスのうち, 急性脳炎など中枢神経系の合併症を引き起こす割合の高いエンテロウイルス71を, 既に4例分離しており, 引き続き注意が必要です。
- ・ 百日咳の報告が5例(0～5箇月, 6歳, 8歳, 10～14歳, 20歳以上)あります。本年の累積報告数は19例で, 乳幼児期に接種したワクチンの効果が減弱する10歳以上が47.4%(9例)を占め, また, 重症化しやすい0～5箇月は, 15.8%(3例)を占めています。

◆ 今週のトピックス: <流行性耳下腺炎>

流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は, 1.51(62例)で, 本年度で最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 三類:細菌性赤痢(ソルネ) 1例(第28週追加)【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例(第27週追加)【1月以降の累積報告数 13例】
- ・ 四類:デング熱 1例【1月以降の累積報告数 2例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.93	120
	② ヘルパンギーナ	2.12	87
	③ 手足口病	1.83	75
	④ 流行性耳下腺炎	1.51	62
	⑤ 水痘	1.02	42
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

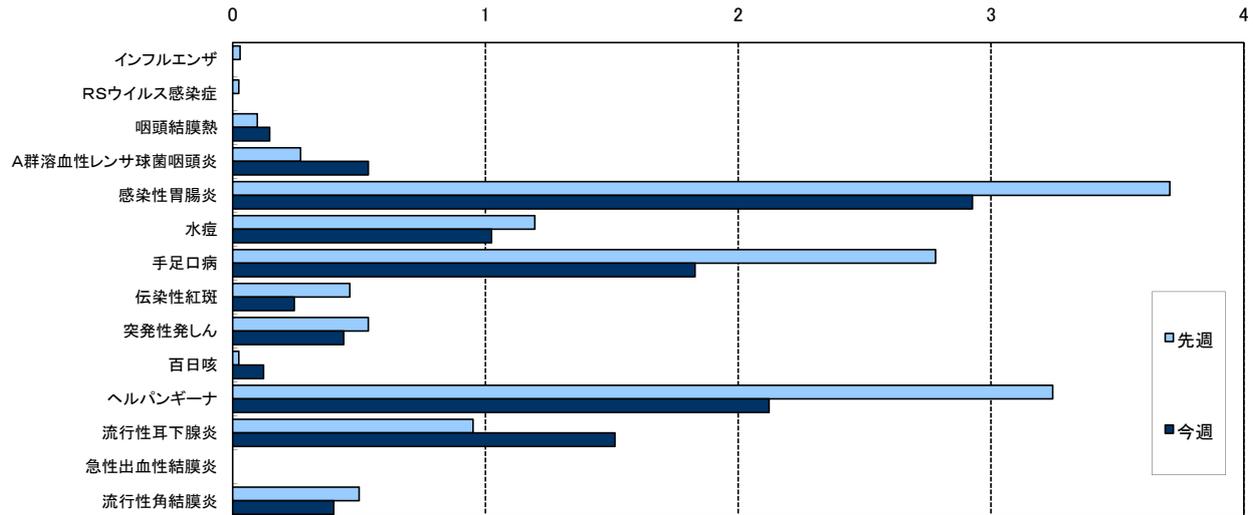
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <流行性耳下腺炎>

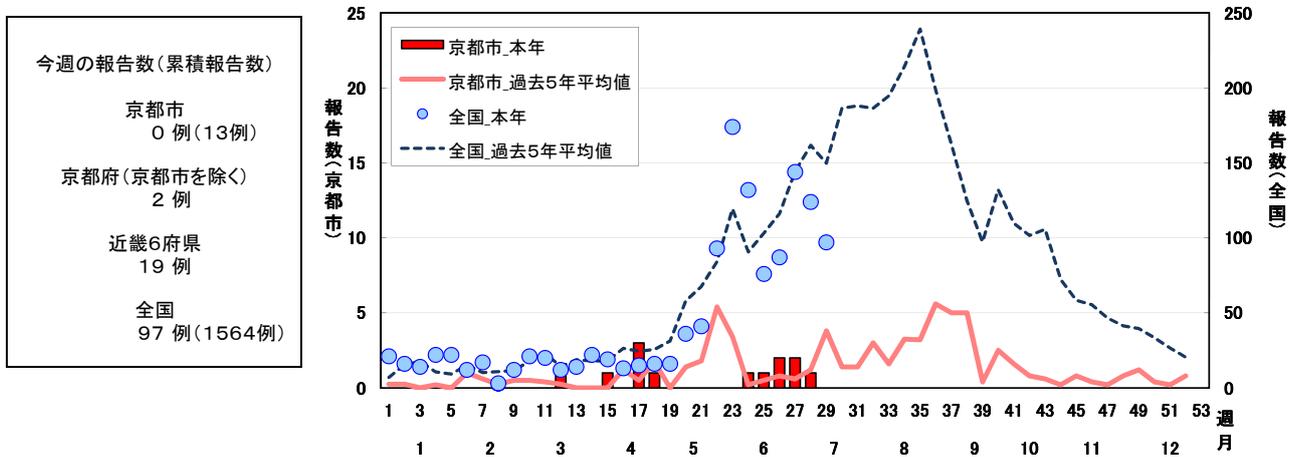
(注) 京都市のデータは, 平成22年7月29日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第29週)と先週(第28週)の定点当たり報告数の比較

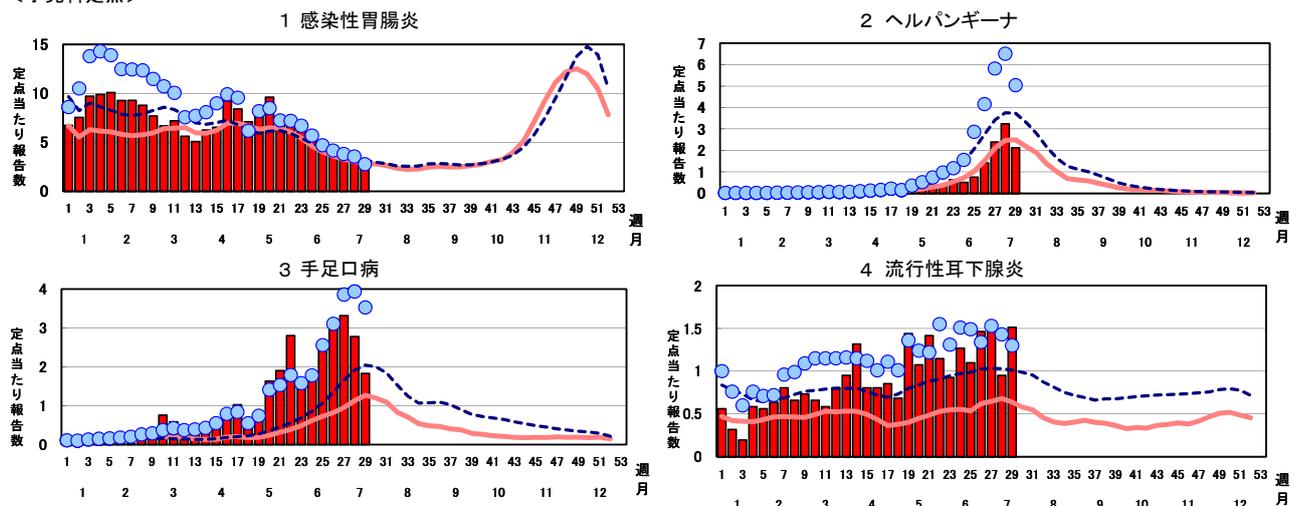


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

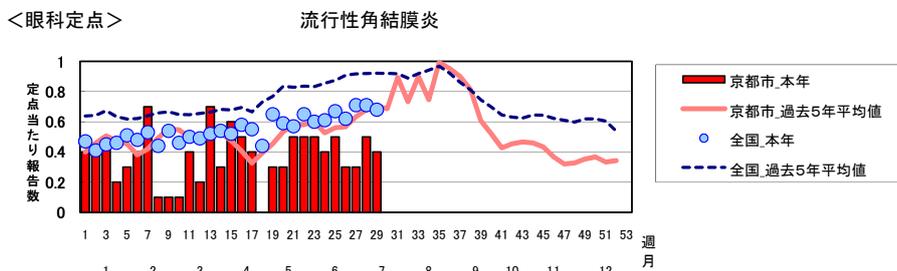


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第29週(7月19日～7月25日)トピックス: <流行性耳下腺炎>

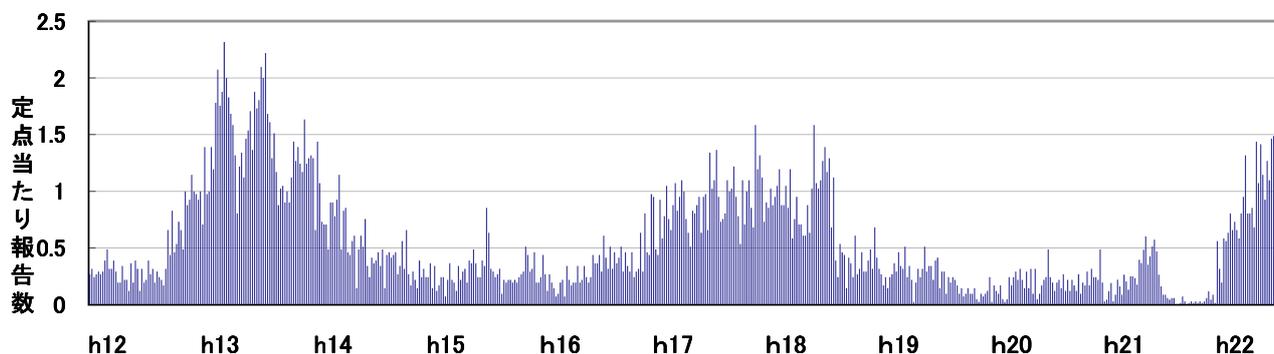
流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、1.51(62例)で、本年度で最も多くなっています。

過去10年間(平成12年～平成21年)の推移をみると、数年おきに報告数が多くなっています。平成19年以降は、報告数が少なく、ほとんどの週で定点当たり報告数が0.5以下の状態が続いていましたが、本年に入ってから報告数は増加し、特に第19週以降は、第23週と第28週の2週を除いて、定点当たり報告数が1.0を超える状態が続いています。今後とも、発生動向にご注意ください。

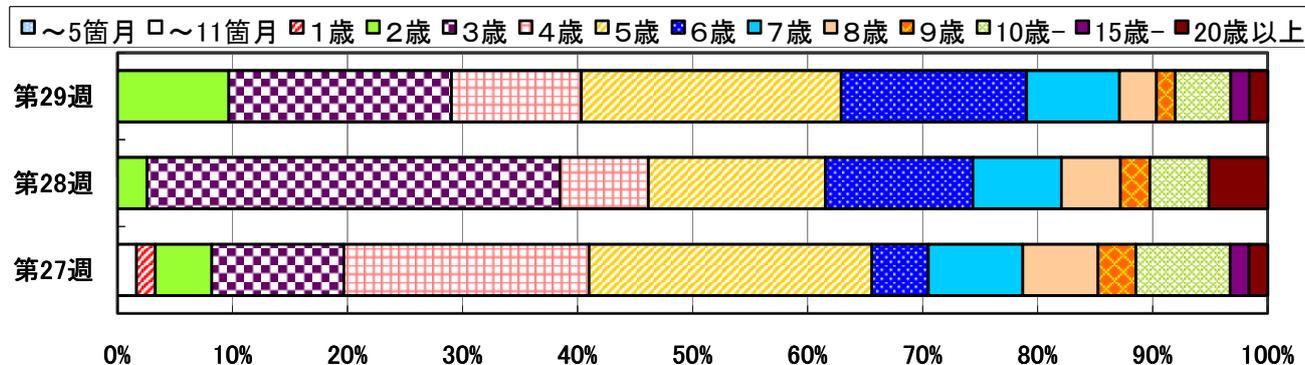
年齢階級別では、5歳が14例(22.6%)と最も多く、次いで3歳が12例(19.4%)、6歳が10例(16.1%)となっており、2歳～6歳が79.0%を占めています。

行政区別では、下京区を除く10行政区から報告があり、南区、伏見区の順に多くなっています。

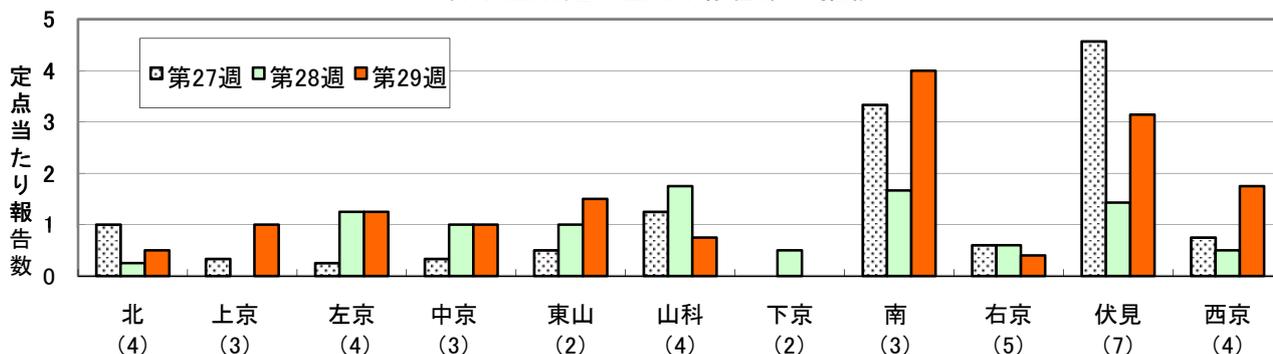
定点当たり報告数の推移(平成12年～平成22年第29週)



年齢階級別割合の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



()内は、定点医療機関数